

みんなの
まなび

私たちが応援します

ボランティア養成講座が修了

町生涯学習推進本部（本部長中村哲雄町長）が本年度新たに開設した「生涯学習ボランティア養成講座」には、二つのコースに合わせて三十八人が受講し、それぞれ全六回の講座を通して、専門的な技術や指導者としての心構えを学びました。

レクリエーションリーダーコース
二十三人が受講したこのコースでは、レクリエーションの効用と活用法について学んだほか、ニュースポーツ、野外活動、ネイチャーゲーム、フォークダンス、手遊びなどの指導の技術を身に付けました。

第三回講座で、町畜産開発公社の木村元思さんから指導を受けた野外炊飯や草木染めは好評で、「身近な自然の楽しみ方や野外での危険管理について学ぶことができた」という感想が聞かれました。



タッチオーブン（鉄鍋）を使った野外炊飯の様子（レクリエーションコース）

読み聞かせボランティアコース

盛岡大学図書館司書の八木融子さんを講師に迎えたこのコースは、十五人が受講。幼児への読み聞かせの大切さや十六ミリ映写機の操作法、わらべ唄などを学んだほか、岩手産業文化セ



絵本の読み聞かせを実践する受講生《読み聞かせコース》

ンター（滝沢村）で開催された「絵本ワールドインいわて」を観察しました。
受講した田野沙織さん（葛巻高三年）は、「ページのめくり方や、場所によって声の大きさを変える工夫がわかりました。これからも実践していきたいです」と話しています。

本講座の修了者は、今後、生涯学習の講座や地域の集会などの機会でも、学習活動の支援者としての活躍が期待されます。

仲間とともに 人生の第三コーナー

平成18年度「60歳のじぶん」

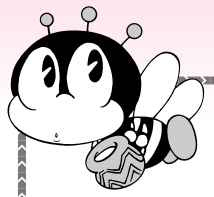
人生八十年時代。ちょうど第三コーナーに差しかかった昭和二十年度生まれの町民を対象に「六十歳のつどい」が二月十一日、ふれあい宿舎グリーンテラスで開かれました。参加した三十二人は、町畜産開発公社の鈴木重男専務理事の講話や料理作りなどで懇親を深めながら、三度目の成人式を祝いました。

優秀賞の受賞経験をもつ阿部光子さん（野中）を講師に、そばがきと飾りの巻きに挑戦。のりとかんぴょうを使い、パンダの顔を描くのり巻きは「孫に喜ばれる」と好評でした。
丹内政志さん（小田）は「講話では鈴木さんの夢に向かって取り組む姿勢に感心し、料理作りでは大笑い。良い刺激を受けた一日でした」と満足げに話していました。



手際良さが勝負のそばがきづくり。素朴な郷土の味を再認識しました。

「みつけよう学ぶ楽しさ、いち、に、さん」 三浦悠佳さん（葛巻小6年）の作品



まなび体験レポート

1月7日から11日まで開催された「ふるさと発見！いわて少年交流セミナー」に参加して沖縄県を訪問した芳田沙紀さん（吉ヶ沢小6年）の体験レポートを紹介します。

「沖縄で学んだこと」

芳田 沙紀



私がこの研修で一番心に残っているのは、宮良ルリさんによる沖縄戦の話です。学校に行けない、次々に人が死ぬ…。最後には自分以外の

人に同情できないくらいの状態だったそうです。平和祈念資料館には戦争で犠牲になった人々の写真が掲示されていました。私はそれを見ただけで心が変になりそうでした。人間が人間でなくなる、本当にその通りだと思いました。

沖縄にはたくさんの文化や楽しさがあります。でも、このように悲しい出来事があったなんて、一つも知りませんでした。私は、戦争の体験を聞いて怖くなりました。「戦争は二度と起こしたくない」と私は思います。宮良さんのように戦争の恐ろしさを伝えていきたいです。いえ、伝えていきます。

この研修で経験したことを、これからの生活に生かしていきたいです。

公民館図書室から

「もったいないで省エネ生活」 学習研究社 編



「もったいない」について、あなたは不思議に思ったことはありませんか。葛巻町の新エネルギーも紹介しています。

「明日へアクセス」



愛犬のミルクと一緒にボランティアを始めた高校生のひとみ。でも、とんでもないことに巻き込まれてしまうことに…。

「不思議の国の全校朝会」 川村庸子 編



子どもの心を豊かに育む岩手発・学校教育の新しい試み。久慈湊小学校で実践された、マジックショーみただいな全校朝会。

俳句の楽しみ①
親子でこつばあざび

たんぽぽは
きらきら光るおひめさま



さくらさき
おしろのほりもピンク色
もんしるちゅう
花びらゆれてねむってる

子どもたちは「春」を見つけると「春をさがす」という言葉は十分に詩の言葉ですが、たんぽぽを「おひめさま」と感じたり、桜の咲いているお城の堀を「ピンク色」と感じることも「春を見つかる」ことです。

春になるといろいろな花が咲きますが、どんな花がどんなふうに咲いているのかよく観察すると、一人ひとり違った「春」が見つかります。

◆ 俳句は日本が世界に誇れる伝統文化です。仲間の作品や大人の秀句を参考に、みんなで俳句を作ってみましょう。

参考 蝸牛新社「小学生の俳句歳時記」